

船舶用プロペラ最大手のナカシマプロペラ（岡山市東区上道北方）は、ベトナム工場を強化。建屋を増築し、電気炉や加工設備を導入。製造するプロペラのサイズを広げる。経済成長に伴い物流が活発化する東南アジアでプロペラ需要を取り込む。2016年秋の全面稼働を目指す。（内田光祐）

ベトナム工場を増強



ナカシマプロペラが増強するベトナム工場

ベトナム北部・ハイフオン市にある工場敷地内に鉄骨平屋2400平方㍍を建設し、既存棟（同5900平方㍍）とつなげる。プロペラの原料となる銅を溶かす電気炉、加工に用いるNC（数値制御）旋盤、製品を運搬するクレーンなどを導入する。現在の生産能力は非公表だが、4割アップするという。

加工設備や電気炉導入 中型の製造も可能に

同社は船舶プロペラで国内約8割、世界3割のシェアを持つ。海外では他にフィリピン工場もある。1926年創業。48年設立。資本金1億円。売上高約240億円（15年11月期）。従業員約400人。

ナカシマプロペラが増強するベトナム工場の余地は大きく、受注状況をみながら人員増など生産体制のさらなる強化も検討したい」としている。

ナカシマプロペラ 来秋全面稼働へ

ベトナムの原料となる銅を溶かす電気炉、加工に用いるNC（数値制御）旋盤、製品を運搬するクレーンなどを導入する。現在の生産能力は非公表だが、4割アップするといつ。

ベトナム工場は主に漁船やプロペラの小型プロペラを手掛けている。増強後は作業船や内航フェリー、タグボートに搭載する同4㍍程度の中型の製造也可能

となる。プロペラの付属部品や、貨物船を横方向に移動させるサイドスラスターなどの生産も拡大する。

（C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。

